

## 雑誌『LANDSCAPE DESIGN』における特集記事の変容

徳島大学 学生会員 ○林穂乃花 宮崎大学 正会員 尾野薫  
徳島大学 正会員 山中英生

### 1. 背景と目的

2003年、国土交通省から「美しい国づくり政策大綱」が公表され、2004年の「景観法」の交付によって日本の景観づくりについて見直される大きなきっかけとなった。また、日本において景観やそれを意味するLandscapeは多様な分野において使われ、景観法やそれに基づく景観計画も様々な分野を横断したものとなっている。しかし、各分野で個々の研究がされる一方、分野を横断し、総合的に研究したものはほとんどない。これからの景観の在り方を探るためには、過去に景観・ランドスケープという名のもとに作られた作品とその変容を知る必要がある。本研究では、分野を横断し、景観・ランドスケープ作品の変容について社会との関係をふまえて分析していくこととする。

### 2. 既往研究整理

雑誌の記事内容の推移から変遷や変容を分析した研究として、『新建築』を対象として戦後の建築家たちの現代建築に関する創作の主題の変容を明らかにすることを試みた奥山・持田・坂本らの研究や、英国園芸雑誌『Gardeners' Chronicle』を対象として日本庭園に関する記事を分析し、英国での日本庭園の変遷と年代ごとの記述内容の比較を行った熊倉・柴田らの研究がある。分析手法はこれらを参考に構築することとする。

また、これまで述べたように各学会でそれぞれに委員会活動が行われ、各分野での専門雑誌の読み解きに関する研究がされる一方、景観・ランドスケープについて、分野を横断し、総合的に研究したものはほとんどない。そこで、日本唯一のランドスケープ専門雑誌であり、「建築」「造園」「土木」など様々な分野を横断して作品を取り上げている『LANDSCAPE DESIGN』に着目した。

### 3. 雑誌『LANDSCAPE DESIGN』について

雑誌『LANDSCAPE DESIGN』は、前身である『ジャパンランドスケープ』（1986年創刊。日本造園コンサルタント協会の機関誌から商業誌になった。）から丸茂喬によって引き継がれ、1995年にマルモ出版より発行された日本唯一のランドスケープ専門雑誌である。構成として、景観・ランドスケープ作品の事例紹介や専門家による連載に加え、テーマに基づいて組まれた特集記事がある。本研究では、雑誌『LANDSCAPE DESIGN』における特集記事を対象として分析する。

### 4. 分析手法

はじめに、1995年の創刊から2020年までの25年間に発行された135巻から、分析対象となる特集記事を抽出する。抽出する際、その年の作品を紹介する「ランドスケープワークス」などの企画は、総集編として既出の作品を取り扱っていることが多いため対象外とした。その結果、全135巻で合計137の特集が組まれていた。次に、抽出した特集を特集タイトルとリード文から「どんなテーマに基づいて組まれたのか」に着目して分類し、これを大分類とする。分類名については、特集タイトルやリード文から抽出したテーマをつける。

さらに、大分類に基づいて、特集記事を特集内の各記事・各作品からさらに細かく分類し、これを小分類とする。特集の要となっている題材が何なのか、何度も検討を行い、これらの分類結果をもとに、社会背景をふまえて時系列的に変容をみていく。

### 5. 特集記事の分類と変容の可視化

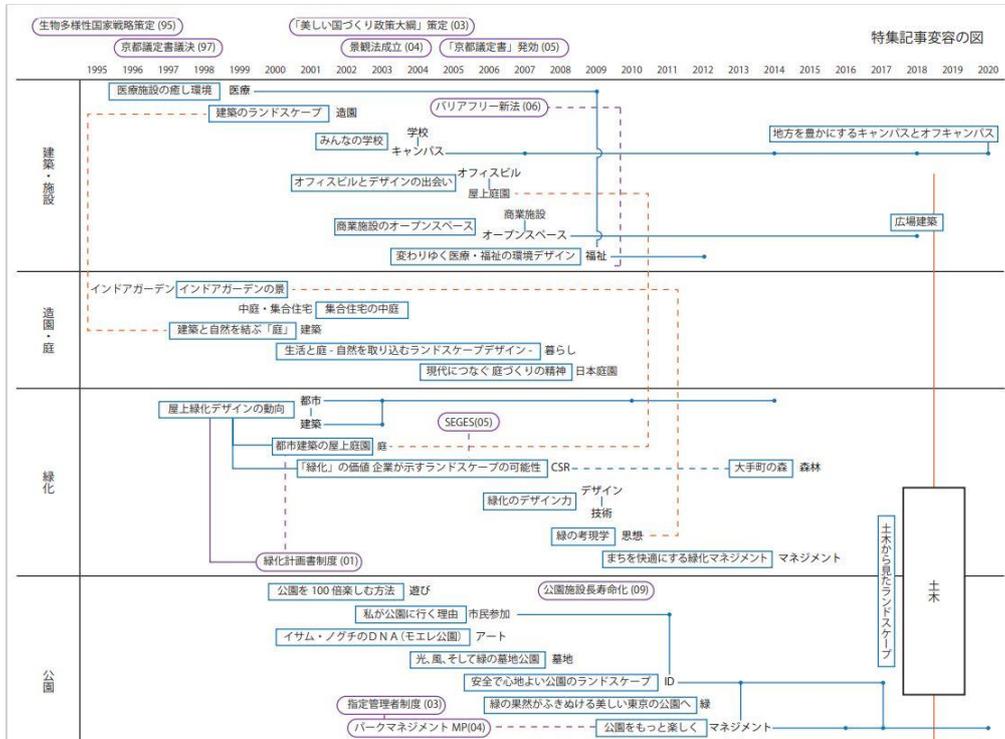
#### 5.1 特集記事の分類

137の特集について分類した結果、「都市」「機能」「造園・庭」「技術」「遊び」「集合住宅・団地」「環境・生態系」「まちづくり」「建築・施設」「緑化」「歴史・文化」「森林・里山」「アート」「公園」「特定エリア」「海外事例」「街路」「光」「交通」「災害・防災」「土木」（登場順）の計21に大別した。またさらに分類した小分類について大分類ごとに整理し、表にまとめた。作成した表の一部を例として右表に示す。

大分類	建築・施設	造園・庭
小分類	医療	インドアガーデン
	造園	中庭
	学校	集合住宅
	キャンパス	建築
	オフィスビル	暮らし
	屋上庭園	日本庭園
	商業施設	
	オープンスペース	
	福祉	

## 5.2 変容の可視化

分類結果をもとに、図におこして関係性や変化を可視化する。横軸を時間、縦軸を大分類として、小分類を初出の年に黒字で、関係する重要な特集記事をその横に青枠で囲って書き込む。次に、各小分類において、特集が組まれた年に青丸をプロットし、青色の実線で繋ぐ。また、直接関連する小分類や特集記事を青色の実線や折れ線で繋ぎ、明確な記述はないが関連があると推測した小分類や特集記事を、青色の破線で繋ぐ。同じ様に、社会背景やその年代の重要な出来事については紫色、大分類の分野を横断した繋がりについてはオレンジ色の実線と破線で関係を表した。作成した図の一部を、例として下図に示す。



## 6. 雑誌『LANDSCAPE DESIGN』における特集記事の変容と考察

5.2で作成した図をもとに、雑誌『LANDSCAPE DESIGN』における特集記事の変容についてみていく。ジャーナル誌というものの役割でもあるが、やはり法の改正や災害など、社会背景に影響された特集記事が多いことが読み取れた。また、代表的なものとして、「建築」「造園」「生態系」「土木」の分野についてみると、「建築」「造園」においては、景観・ランドスケープ作品として取り扱われる作品や題材が、目に見えるハードなものだけでなく、その空間を構築するシステムや思想などのソフトなものまでにどんどんと広がっていく傾向がみられた。また、「生態系」や環境の分野については、はじめからハードとソフトの両方から景観・ランドスケープを捉えた特集記事や題材が多く、「土木」はハードよりの視点ではあるが、広い分野を横断して作品が取り上げられていることが読み取れた。代表的な分野における特集記事の変容を図2のように概念図として示す。

